

令和2年度 第3回古賀市文化芸術審議会議事録

日時：令和3年3月18日（木） 13時00分～14時40分

場所：リーパスプラザこが歴史資料館中会議室

出席：審議会委員 都甲康至会長、久池井良人副会長、森部忠彦委員、松田信一郎委員、
平川由記子委員、山本節子委員、山田周作委員、谷口治委員、山下善行委員
事務局 柴田博樹文化課長、杉村幸一歴史資料館長
井英明文化振興係長、文化振興係業務主査新本美彩

欠席：なし

傍聴者：なし

配布資料

- ① レジюме
- ② 【資料1】古賀市文化団体アンケート（案）
- ③ 【参考資料】平成30年度実施団体アンケート調査結果
- ④ 【参考資料】平成23年度実施団体アンケート調査結果
- ⑤ 【参考資料】平成23年度古賀市文化芸術審議会団体ヒアリングに係る作業部会報告書及び議事録
- ⑥ 【参考資料】古賀市内団体一覧

1 開会のことば

2 教育部長あいさつ(省略)

3 会長あいさつ

4 協議事項

古賀市文化芸術振興計画の総括に伴う団体アンケートについて

都甲会長：協議事項で「古賀市文化芸術振興計画の総括に伴う団体アンケートについて」ということですが、前回の議事録もふまえて、事務局より説明をお願いいたします。

事務局：それでは協議事項「古賀市文化芸術振興計画の総括に伴う団体アンケートについて」お手元の資料をもとに説明させていただきます。前回の審議会では、計画の総括資料とするため、文化団体にアンケートをとるという事務局案をご了承いただいたところです。審議の中で「アンケート案があった方がよいのでは」というご意見をいただき、今回、事務局にて作成したものが、「資料1 古賀市文化団体アンケート（案）」となります。まずはこちらについて、説明します。問1の世代別会員数は、前回のアンケートでもお尋ねしており、どの年代の方が文化活動をしているのかの把握と共に、会員数の推移も把握できるかと思い、挙げております。問2、3では古賀市での文化活動のしやすさの把握のために挙げております。問4から問8については、アクションプランの「団体がおこす」に関連付けた設問になっています。例えば「問5 貴団体が活動を行うにあたり、古賀市の文化・歴史・風景など、古賀市の環境を生かした活動をしたことがありますか。」はアクションプラン中の「団体がおこす」の「宝をいかす」の項目「文化・歴史・風景など、古賀市の環境を生かした文化芸術活動を行おう。」に対応している、といった形です。これらの設問でアクションプランの成果が検証できればと思い、項目に入れております。次の問9か

ら11については、新型コロナウイルスの流行に伴う団体のご意見、並びに工夫を伺えればと考えて、挙げております。問12については、今の現状の課題をお尋ねすることで、次の計画へのヒントをいただければと考えて入れております。今回初めてアンケートへの協力をお願いする団体さんについてはここまでのお尋ねとなりますが、以前アンケートにご協力いただいた団体さんについては、その経過を測るべく、問13から15までの設問を追加でお願いしようと考えております。お願いの際には、前回いただいた回答の写しを同封しまして、当時と比較しながら書いていただければと考えております。本日はこのアンケート案について、設問数が妥当か、内容がどうか、またこういう項目もあった方がいいのではないか等、ご意見をいただくとともに、アンケートを何団体をお願いするのかというサンプル数についてもご意見いただけましたら助かります。その他の資料についてですが、計画中間年の確認のため平成30年に行ったアンケート調査、そして計画策定時の平成23年に行ったアンケート調査とそれを踏まえた審議会の協議内容として報告書と議事録を参考資料として、配布しております。また併せて、現在古賀市として把握している団体の資料として、文化協会さんの加入団体一覧、つながり広場の登録団体一覧、そして社会福祉協議会のボランティア登録団体の一覧表を配布しております。本日もいただいたご意見をもとに、令和3年度に団体アンケートをお願いしようと考えておりますので、色々なご意見をお聞かせいただければと考えております。事務局からは以上です。ご審議のほどよろしく申し上げます。

都甲会長：事務局に一つお尋ねしたいのですが、アンケートの実施時期はいつ頃でしたか。

事務局：年度開けてすぐ、4、5、6月くらいでとりまとめたかと考えています。

都甲会長：依頼はいつ頃でしょうか。

事務局：依頼は4月中を考えておりますが、今回大きく案が変わるようでしたら、会長と協議させていただきながら、時期を決めたいと考えています。

都甲会長：もう一つ、依頼文はどうなりますか。

事務局：依頼文は付けさせていただく予定です。

都甲会長：アンケート内容を踏まえての依頼文になっているかどうか。依頼文の内容も大切かと思って尋ねました。そういうことを踏まえつつ、項目ですとか、内容ですとか、皆さまいかがでしょうか。

谷口委員：見せてもらったのですが、この分をそのまま出すと、4月時点で回答するのに、皆さん2年度はコロナで発表する場所もない、練習する場所がない、リーパス閉鎖された、各地域の集会所などもほとんど閉鎖されているのです。ですので、前書きなどで「通常はこういう形のぶん」と入れないと、アンケートの内容が5年前からさかのぼってですと、大幅に変わらと思うのです。だから閉庁になったぶん、コロナになって皆さん初めての経験といいますか、大正時代にはスペイン風邪などあったと思うのですが、今生きている世界でこんなことになったのは初めてなので、これから文化活動をどうしようかと、どうすればいいですかと書いてあるけれども、こういう事態が起きた時や災害も触れているので、ちょこちょことは書いてありますが、もう少し詳しく、文化団体としてこういう危機に備えたら、どういった活動ができるかなど、もう少し掘り下げて聞けないだろうか考えたところです。

都甲会長：ということは、項目の10番など見直した方が答えやすいということになるかもしれません。他にありますか。

久池井委員：今に関連してなのですけれども、確かに昨年度のことを書けば「何もできなかった」という状態になろうかと思うのですが、このアンケートの主旨は以前に比べたら現在の状況はどんな形になっているのかを聞きたいわけです。文面をよく読むと問4から問8まで全て「行ったことがある」や「環境を生かした活動をしたことがありますか」など、「過去にありますか」「期間中にありますか」と、昨年度限定ではないわけです。今ご意見あったように、昨年度のことというよりもこの数年、以前と比べると

どういう状況であったかお尋ねします、ということをごきちんと前置きしないと、団体によっては昨年度のことだけを書いてくるところもあるかと思ひます。非常に大事なところだと思ひますので、しっかり前置きをよろしくお願ひします。

事務局：補足だけさせていただきますと、これは街頭アンケートではありませんので、依頼文を付けようと思ひておひります。時間的に余裕がなければ、会長と打ち合わせさせていただいて、審議会を開いて見ていただける時間があれば、そこでまた協議をしていただければと考えておひりますが。主旨の説明とサンプルといひますか回答例を付けられるような形にしてみたいと思ひます。あと対象が決まっておりますので、口頭での説明も可能かと思ひますので、そのあたりはしっかり伝えられるようにしたいと思ひておひりますので、よろしくお願ひします。

都甲会長：主旨の説明は大事だと思ひます。誤解のないように回答していただくためにも大事だと思ひますので、私も見ておきたいと思ひます。他いかがでしょうか。

久池井委員：先ほどのことに関連するのですが、私としてはこのアンケートがアクションプランの内容にきちんと対応しているということが素晴らしいと思ひます。確かにアクションプランあつての活動なのだということ、アンケートを書く時点で、改めて意識してもらうことが大事ですので、古賀市の個性をおこすということに対応した形で書かれているので非常にいいと思ひます。ただ「○を付けてください」といふところでは「ありますか?」「あります」。ところがこちら側としては「ありますか?」はいいのですけれども、具体的にどんな内容かがわからないと「あります」がいくら集まってもイメージが湧かないのです。とは言つても、沢山書くと時間的な問題があるかもしれませんが、少なくとも代表的なものなど、「これはした」といふものについては、内容を書いてもらうところがあるといふのではないかと。長々と書くのでなければ、そこまで時間もかからないのではないかとと思ひます。

都甲会長：アクションプランの内容と、あと例えば5, 6あたりについて、何らかの内容を書くところがあつた方がいいのではないかといふことでよろしいでしょうか。

事務局：少し確認させていただいてよろしいですか。今、先生がおっしゃつたことは、例えば問5であれば、どこかに○をつける形になるのですが、例えば横に括弧を付けて「具体的にどのような活動を」と、そういったものがあつた方がいいといふ意味合ひで捉えてよろしいでしょうか。

久池井委員：「ない」「ある」と○をつけるところがありますので、その下あたりに括弧で、具体的に活動を書く欄があるといひかと思ひます。

事務局：わかりました。ありがとうございます。

谷口委員：問6で公民館とか古民家など地域のを活用したことがありますかといふことで、「何回使つたか」といふことだけなので、例えば公民館使つた、リーパスを使つた、どこかの古民家使つたなど、内訳がないので、どこかの施設を利用したのはわかるけれども、どこを使つたのか、活用した場所があれば、よりわかつて、次そういったところを利用しようといふような、アンケートの結果を受けて、宣伝などもできるのではないかとと思ひました。

都甲会長：活用した場所がわかつたほうがいいのではないかといふご意見いただきました。例えば書ようになった場合、皆さん書けそうですね。

平川委員：問6で「どういふ場所」といふ場所を聞かれている後に、問7で「地域で活動を行つたことがありますか」と聞かれているのですが、これは場所ではなく、地域でといふのはどう考えたらいいですか。古民家などでなく地域で、といふのは、外でといふことでしょうか。

事務局：こちらでもアクションプランの中から出した項目となりますが、問6はアクションプラン中「宝をいかす」にある「地域の公民館や身近な施設を活用するとともに、古民家等の利用可能な場所を開拓し、

文化芸術活動の場として活用しよう。」ということで、古民家などの「場」を使って活動したことがありますか、とお尋ねしています。問7の方は「宝を伝える」の「文化芸術を身近に感じられる体験講座など、地域に出向いた活動を提供しよう。」という、場所は屋内でも屋外でも、例えばレストランなどでもいいかと思うのですが。

平川委員：出前講座のようなものですか。

事務局：そうです。ただ先ほどご指摘いただいたとおり、わかりづらい部分もあるかと思しますので、事例を示すなどの対応をとろうと思います。ありがとうございます。

久池井委員：アウトリーチなど色々言いますね。それであれば、アクションプランに書いてあるとおり「地域に出向いた」という言い方をされたほうがいいです。あと、依頼文を出すときにアクションプランを持っていらっしゃるかとは思いますが、一緒に付けておくと喜ばれるかと思えます。これがきちんと対応しているということがわかってもらえるといいかと思えます。

都甲会長：依頼文の表現で協力関係が変わる可能性があります。そこ、大事にしたいと思えます。

山下委員：このアンケートですけど、この「古賀市内団体一覧」そこだけに送るという考えですか。他の地区や区などでも活動している団体などあるのですが、そこには送られますか。

事務局：基本的には、前回聞かせていただいた団体さんが第一義なのですが、前回の会議でも色々仰っていただいたかと思えますが、もう少し広げようというお話がありましたので、このくらいしたほうがいいのではないかとご提案いただいた方が我々としてはありがたいです。もっと言うのであれば、お忙しいでしょうが、委員さんたちで行っていただくなどの形をいただければありがたいなとは思いますが、そこまでは言えませんので、最低ここまでは必要です、ということ逆を仰っていただけるとありがたいです。我々としても、できるだけ多くの方にお願ひできればと考えております。

都甲会長：どれぐらいのサンプル数かということは、この後、先に中身の項目を見てからにしようと思えます。それぞれ自分が書く側になったときに、これはどうだろうと思う項目があれば。

森部委員：私も事前に読む中で、内容がどの分に対しての、例えば何回かといった回数でアンケートをとられているようですが、それだけではなくてやはり先ほども出たように、場所などをしっかり捕まえることが今後の参考になるのではないかと感じました。内容的には私は今出てきているようなことでいいのではないかと考えています。

都甲会長：ありがとうございます。他いかがでしょうか。内容、項目などについて。

松田委員：今回のアンケート項目の中の9、10、11と新型コロナウイルスに関する項目が入っていますが、これはアクションプランを作った時点では想定されていなかったことなので、これに入れてもらってよかったと思えました。ただ、もう少し具体的に、去年の経験を今年活かすといったように、もう少し具体的な何か、行政としてできる政策の要望を聞きとることはお願ひできないでしょうか。問11に「どのような仕組みが必要ですか」とは書いているのですが、具体的に付けてはどうかと思えます。

都甲会長：例えば問11で「どのような仕組みや支援が必要と考えますか」といったそういう表現がいいのではないかとということですか。

松田委員：そうです。

都甲会長：いかがでしょうか。

事務局：支援をという話ですが、行政に限らずということで含めてここに加味させていただければと考えています。行政としてできることは限られていますが、例えば一般企業さんの応援であったり、地域の応援であったりということを含めてということでの支援ということをつけ足させていただければと考えています。

松田委員：それで結構です。

事務局：行政の支援というのがどうしても狭い部分がありますので、すみません。よろしくお願いします。

松田委員：国などは既に色々と支援策を出していますから、それに伴って行政も国からの支援でまた活動に活かさせてもらうということもあるかと思います。

事務局：我々が考えている以外にできることや支援を提案していただけることもあるかと思いますが、対応したいと思います。ありがとうございます。

山田委員：質問よろしいですか。問8のところになるのですが、「屋外における広報活動や発表など」といった見える化について書いていますが、どういったものが見える化に該当するのかを教えていただけますか。

事務局：屋外における広報活動など、活動の見える化ということですが、以前の審議会でも、例えばホールなどの屋内で行う活動も勿論いいが、普段興味が無い方にも通りがかりに見てもらえる、そういった活動があればいいのではないかというご意見をもとにできた項目でして、例えば駅前であったり、祭り会場のステージであったりといった、「活動を見にいこう」と思ってみるのではなく、通りがかりに「何かやっている、何だろう」と活動に触れていただくこともいいのではないかということで、アクションプランに入った項目でして、これをされた団体さんがいるのかを確認させていただければと思い、アンケートに入れたところです。

久池井委員：今の見える化は、実際ピンとこない方もあられるかと思いますが。作った側はわかっているかと思うのですが。そこで「例えば」ということで例示があるとわかりやすいです。

森部委員：今の件ですが、例えば活動する前の事前のPR、活動のためのチラシやポスター、そういったことかと、これを読んで捉えていました。実際の活動もそうですが、活動前のPRなどもここに入れた方がいいのではないかと思います。

都甲会長：そういうふうにも読めます。PRなどもここに含んでいいのではないかと思います、活動だけではなくて。要は市民の多くの皆さんの目に触れるということが大事だと思いますので。そのためにも先ほど言われました例示を足した方がいいかと思います。

山本委員：皆さんが仰っているご意見、もっともだと伺っております。先ほどの「見える化」についても「見える化」という言葉自体わからない方もいらっしゃるかと思いますので、具体的に書いていただければと思います。そして最後の頁の問15ですが、今までアンケートを出された方にこの紙が行くという説明だったのですが、「平成23年アンケートの問9③も参考にしてください」と書いてあるのですけれども、今まで書いたことを忘れていると思うのですが、前の分と一緒に添付していただけたらいいかと思います。

事務局：添付します。

都甲会長：私から少しいいですか。前回の資料を付けます。するとそこに課題がたくさん出ています。その課題がどうなったかということがわからないままに次の課題を書くということになることが想定されますが、そのあたりをどう考えますか。例えば資料の「平成30年度実施団体アンケート調査結果」にも「改善が必要な点」という項目があり、自分たちの団体として改善できる回答があると思うのですが、別の事業や資源などを求める課題もあります。そういったことについてまた同じことを書かれるのではないかと思います。

事務局：できれば課題を書かれた時点で課題を解決できることがベストだと思うのですが、必ずしもそうではないと思いますので、いまだにその課題を抱えていらっしゃるということを把握する意味では、書いていただいた方がいいかと思います。我々もできるアドバイスを持ち合わせていないため、何とも言えないのですが、できるだけの対応をしましたという姿勢は見せたいと考えております。

都甲会長：そうするとますます依頼文が大切になってくると思います。

事務局：仰る通りだと思います。ただあまりくどくならないように、わかりやすいようにと考えております。できましたら案を早急に作りまして、会議を持つ場がなければ、皆様に直接送り付けるような形になってしまうかもしれないのですが、またご意見をいただくような形にさせていただいてもよろしいでしょうか。一旦会長と打ち合わせさせていただいたうえで皆様に、というような流れを作りたいと考えておりますが。

都甲会長：わかりました。

事務局：ありがとうございます。此方から勝手に提案して申し訳ございません。

久池井委員：以前に一度アンケートを取っていらっしゃるので、ようするにその時に明らかになった課題が改善されたのかどうか、改善されたものといまだに残っているものがある、それが何なのかということを知りたいわけです。そうすると次の計画につながってくると思うのです。改めて今の時点の課題は何かということが書かれたら、前の課題は解決されていると考えられるので。以前の課題がどうなのか、よくなったところはよくなったでよしとして、依然として課題はそのまま残っているのであれば、そういった形で書いてもらえば今後のためにいいかと思います。

平川委員：私は以前アンケートを書いた立場なのですが、私誤解していたということに今気づきまして、課題を書かないといけないところを、「古賀市の方がこうなったらいい」という課題を書いてしまったのです。団体の中で持っている課題もありますが、どちらを書いたらいいのか、今の話ですと古賀市に向けての「こうあったらいい」というような改善を書いたらよかったですのでしょうか。それとも自分の団体内で収まることでしょうか。

会長：どちらもあっていいと思います。自治体に向けての事業などは、こういった支援があったらいいということになるでしょうし。

平川委員：両方書いてよかったんですね。私はてっきり古賀市に向けての内容で書いてしまって、実際そこには自分の団体が抱える課題は書いていないのです。しかし同じように誤解してしまう方もいらっしゃるかと思いました。

事務局：今いただいたご意見ですが、各団体が持たれている課題、それから外的な要因でこういうことが阻害されているというようなことも把握できたらと思いますので、どちらでも書かれてください。ただ市への要望だけを書いてくださいということは、我々としても言い難いので、そういった主旨が表現できるように頑張りたいと思いますので、そういったことでご支援いただければと思います。

松田委員：今世の中ではテレワークが推進されていますけれども、その件でアンケート項目の中に1点入れていただきたいのですが、各団体さんがテレワークをリモートでできるかどうか。文化活動、文化の発信なども今ウェブ上でできますので。すでに谷口委員のところ、ゆいではスポーツ大会をリモートでやっていらして、ああいった形で文化活動も発信できますし。そして将来的にはこういったアンケートもペーパーではなくて、そういったものでも十分にできると考えます。そのためにパソコンが普及したと思うのですが、相変わらず紙を使っている。そういった意味で各団体さんが対応できるかどうか、まだ我々もできていませんし、既に小中学生は端末機を全員持っていますが、一般の方々はまだまだ持っていませんし。子どもと大人のギャップも出ていると思うのです。テレワークを推進する意味でもアンケート調査に入れていただければいかがでしょうか。

事務局：恥ずかしながら、松田委員のその視点が抜け落ちていたようです。市としても今テレワークを推進しているのですが、この生涯学習ゾーンについては、Wi-Fi 環境などがあまり整っておりません。そういったことも含めて今後の課題ということで受け止めさせていただければと思います。貴重なご意見あり

がとうございます。

谷口委員：今のご意見についてなのですが、私たちも各公民館などそういったところで Wi-Fi 環境が入っているか調査をしたのですが、ほとんど無いです。今回いろいろな活動に際して、拠点の公民館などに Wi-Fi があれば、災害時などに区長さんが集まらなくても、公民館にかけつけてウェブカメラで周りの状況が見えるなど。我々が事業を行ったゆいでも、ルーターを借りて、先ほど言われたスポーツ大会だけでなく鍵盤ハーモニカなども行っています。前は多目的ホールで 200 人集まってやっていたのですが、今はできなくなったので、各公民館で団体ごとを繋いでいろいろ行っています。そういうことも含めて、各公民館に Wi-Fi など。いろいろなところ北九州市や横浜など各公民館でも、ドコモなど無料のものを入れて、3 社程度置いているところもあるのです。古賀は残念ながら今あるのは 4 か所くらい、谷山や町川原、花見の所など 3 か所くらいですので、そういった整備など含めてこういうアピールもしてほしいと思います。

都甲会長：施設の情報化、ネットワーク化ということでご意見いただきました。

久池井委員：問 10 に「昨年の新型コロナウイルスの流行に伴い、活動を行う上で工夫されたことがあれば」と書いてありますが、工夫という言葉から聞こえる範疇、今のテレワークやリモートでの対応を行いましたというのは、工夫というより新しく取り入れたという部分だと思うのです。そのあたりも強調して聞いてもらおうと、「他の団体でここまでやっているところがあるのか」と思えば、刺激になると思います。色々教えてもらおう、など。逆に言うところ「ここまで取り入れているならば、古賀の今の環境は遅れているのではないか」というような指摘にもなると思います。古賀市の図書館では今年 3 月から電子図書館を開設しました。非常に県内でも進んでいるところです。私は今日ここに来て、電子図書館入っているかな読もうかと思ったのですが、Wi-Fi 環境が無いのです。これ Wi-Fi 環境があれば申し分ないのにな、と思ったところなのです。ですので、やはり基盤整備をきちんとしながら、団体の方でもされているのであればそういった情報もくださいという両面からいくといいなと今のお話を聞いて思いました。

都甲会長：問 10 の中の工夫について例文を入れるとわかりやすくなるかもしれません。そして項目を足すとすると、先ほどの Wi-Fi であるとか、情報化やテレワークなどの検討になるかと思えます。そうすると項目が細かくなりそうなのですがどうでしょうか。それでは確認も含めて振り返りますと、まず主旨文の話、それから案のところ申しますと問 5・6、こちらは具体的に内容を記入する欄を設けてはどうかという話でした。次の問 7 ではアクションプランに沿った形での表現、問 8 「見える化」について、市民の方がわかるような表現にしてはどうかという話、問 9 以降のコロナの質問に関しては先ほどの話、問 11 については仕組みの話が出ていたと思います。それから課題に関しての書き方については、課題の位置付けについて誤解のないようにしたいという話でした。そういうようなところだと思いますが、認識もれているところがありますでしょうか。

山本委員：問 7・8 も具体的な内容を入れる話だったと思います。

都甲会長：そうですね。こちらにも具体的な内容の記入欄を入れるということで、修正する項目がありますので、これを 3 月いっぱいには 1 回見せていただいて、4 月中に皆さんに見ていただく。そうすると団体さんをお願いするのは 5 月明けくらいでしょうか。先ほどのスケジュールからいきますと。

事務局：我々は時間が取れますが、会長がお忙しいかと思えますので、できれば連休の前くらいには皆様にお聞きできればと考えております。

都甲会長：できれば 3 月いっぱいくらいに打ち合わせをして、原案を作りたいですね。そして 4 月頭くらいに皆様にお送りして確認していただいて、中旬に確定すれば、4 月連休前には依頼を送ることができるかと思えます。

事務局：かなりタイトにはなりますので、結果的には 5 月連休明けになるかもしれませんが、そのスケジ

ユールで進めさせていただきます。

都甲会長：そうしましたら、今検討していただいたアンケートを、どの団体さんをお願いするかという話になるのですが、前回の議論の中では、継続して聞く団体さんも必要だろうということで、まずそこが基本になるかとは思いますが。議論に入る前に質問なのですが、前回の調査で平成 23 年をお願いした団体が 7 団体、新規に調査した団体が 5 段階ということですが、どれくらいの団体に依頼したのでしょうか。回収率が知りたいと思います。

事務局：新規の団体が 10 団体、前回回答いただいた団体が 10 団体の合わせて 20 団体です。そのうちご回答いただいたのが、こちらの 12 団体となります。

都甲会長：合計 20 団体くらいを目指すとして、前回の回収率について新規が半分くらいであるということは、1, 5 倍の 30 団体くらいをお願いするということが考えられるかと思うのですが、それについてはいかがでしょうか。

谷口委員：ここに出ている団体というのは、皆さん自分たちが文化活動をしているということで、苦勞なり何なりされておられる方のアンケートだと思うのですが、古賀市内の一般的な文化度を測るバロメータとして。団体も大事ですが、今古賀の地域でやっているところで一番大きいところで、分館という制度がありまして、各地域には分館長がいるのです。そういった各自治会の中で団体を呼ぶであつたり、お祭りをするであつたりと色々な文化活動をされています。そういうところで地域の総会で意見を聞いて、こんな文化団体があるので呼んでみようと言って。逆に言えば、古賀市のその文化度というか、どういう要望があるかということがあると思うので。この内容でもいいので、分館長の研修などあると思うので、間に合うかどうかわかりませんが、そこで市内全部の分館に対して、これに沿ってどういう活動をしていますか、など。生涯学習などいろいろな多岐にわたっているのです。そのいろいろな年間の活動でしている中で、音楽やアートなどを招いておこなっているのです。そこを拾えば、ここで取れないようないろいろな活動が見えてくるのではないかと。そうするとサンプル数でも 40 以上あるのでごそっと増えるのではないかと思います。そこもアンケートの対象に入れてはどうかと考えます。

都甲会長：提案ということでよろしいでしょうか。

森部委員：そういったデータは公民館が持っているのではないかと思います。一度公民館にお尋ねされて、なおかつ必要であれば、今谷口委員が言われるように、同じようなアンケートを出すことも考えられるかと思えます。大体公民館の新しい役員さんの会合はもっと遅いと思います。だから仮にお願いするにしても間に合うかと思えます。

山下委員：間に合わないのではないかと思います。

森部委員：いずれにしても公民館に一度確認されるといいかと思えます。

山下委員：それよりも区長をお願いしてはいかがでしょうか。

谷口委員：区長と分館長を兼務しておられる方もいらっしゃいますが、文化活動や公民館活動は分館長が行うということになっていますので。

事務局：補足させていただいてよろしいでしょうか。公民館の役員もしていただいておりますので、事情をよくご存じだと思うのですが、データそのものは公民館係で把握しているものと思われまます。今回は団体アンケートということで取らせていただきますので、分館は文化が目的ではなくて、おそらくまちづくりであつたりであると思えますので、文化を手段として使われているということで、主旨が違うかと考えております。文化そのものを把握するという意味では大切なことと思えますが、アンケートとしてはいかがかということ、こちらで議論していただければと思います。データそのものは集めることができるかと思えます。依頼についても複雑な事情がございますので。

谷口委員：委員が持って行って、お願いすればいいのではないかと。ただそういった形で類似公民館で。そんなものが必要かということについて、先ほどの Wi-Fi の問題などあるのですが、そういったことが聞き取れれば、こういったものがあれば文化活動の支援であるとか支援が聞き取れるのではないかと。行政でも縦割りといいますか、生涯学習推進課であったり、文化課であったり、こちらのほうで同じ内容をあれしてちょっとお願いしますということでもいいかと思うのです。データが取れているということですが、この内容と向こうが取っている内容が同じかどうか。同じであれば取らなくてもいいかと思いますが、取ってなければ、知りたいということであれば、行政からが難しいのであれば委員会としてお願いしますということで、向こうの会議に要望して取ってもいいのではないかと思います。

都甲会長：今のに関連してですが、アンケートの依頼者は誰になるのでしょうか。

事務局：古賀市です。

都甲会長：微妙な問題がありまして、自治体さんがお願いする場合と、先ほど仰ったような形で審議会の名前が出てくる場合があるので、どちらかと思ひまして、気になったところです。

事務局：今回のアンケートが何のためかといえば、アクションプランや計画のためですが、これを策定するのは市ですので、今回は市から依頼するという形です。ただその諮問機関としてお願いしている審議会からお願いすることも可能ですが、市が行うということについては、特段問題はないと考えております。ただ正直な話、分館長、分館主事も古賀市の一機関ではありますので、そういった意味では指示命令形態の中に入っているのですが、所管が違うのでお願いに行くということはしなければならぬかと考えます。不可能ではないです。必要であれば動きます。

久池井委員：公民館側で把握されているものがあれば、それがどんな内容かを見せていただいて、参考になるものはこの中に入れるということでもいいのではないかと思います。同じようなアンケートでお尋ねするにはあまりにも違い過ぎると思います。団体さんに聞いている部分は、前回からの引継ぎの部分があって、そしてまたアクションプランに沿って聞いていますので、要するに話は全体の中で理解できる範疇なのですが、地域の分館長であれば「それはどういう話でしょうか」というところから始まっていくので、なかなか大変かと思ひます。今お話があっていることも確かに大事なのですが、公民館側で集約できるもので、ある程度内容がわかるのであれば、まずそれを利用した方がいいと思ひます。

事務局：分館を通してどういうことをされているかということは把握しておりますので、文化に根差したもの、まちづくりのもの、また子ども会のものなどいろいろなものがあるかと思ひます。それをお示しすることは可能ですので、それを参考にさせていただくことでお願いできればと事務局としては思ひます。

久池井委員：もちろん公民館側も文化の一端を担っているということでされているのであれば、そういう意識をもっていろいろな行事をやっていただいたり、集約してもらったり、そういった形になれば、古賀市が一体になって進めているということも出てくると思ひます。連携しているのは非常に大事だと思ひます。そういったわかっている資料はできるだけ生かして行って、足りないものは逆にリクエストして、投げかけていくといいと思ひます。

事務局：場合によっては、計画の中に反映させていくこともあり得るかと思ひますので、そういった方向で考えさせていただければと思ひます。

都甲会長：今、公民館や分館などでてきましたが、どういうものなのでしょうか。

事務局：古賀市内に、46自治会があります。その各自治会長さんに行政区長といういわゆる市の職を引き受けていただいております。そして各自治会は分館、建物を持っていまして、そこは自治会のものなのですが、そこに分館長という職を置かせていただいております。その方々が分館長、分館主事ということで、市の末端機関にはなるのですが、活動をしていただいているという状況です。

都甲会長：するとこのアンケートの中からすると、活動する「団体」ではないということですか。

事務局：基本的には団体ではないのですが、そこが微妙なところで、実際には自治会がやっているという話になります。ですので、その区切りは正直ないのです。夏祭りをするのも自治会であったり分館であったり、まとめて言うとその地域の方々、ということになります。そこに垣根はないのですが、ということで、少し難しい部分です。

都甲会長：仮にアンケートを依頼するとした場合、宛名は誰になるのかと思ったのです。やるとした場合、今そうでもないのではないかというご意見も出たので。

事務局：自治会という団体なのか、行政区長さんなのか、分館長なのか、という選択肢にはなるかと思えます。

山下委員：それですと分館長でしょう。

森部委員：そうですね。

事務局：分館長さんは分館長さんでおられて、特に組織をお持ちでは、地域によってはあるかもしれませんが、基本的には組織をお持ちではありません。

都甲会長：組織を持っていないのですか。

事務局：そうです。組織をお持ちではないがゆえに自治会とからめて、というところがほとんどです。

都甲会長：逆に、施設等に関する現状と課題とかいうことであれば、聞けるかもしれないということですか。文化がどうではなくて、施設としてであるならば、別のアンケートとして聞ける、実態を把握することができる、ということでしょうか。

事務局：文化を発信する場としてということですね。

都甲会長：そうですね、整備状況や実態をうかがうことはできるのではないかと思います。

谷口委員：住人の中には中央公民館やリーパスなどが遠くて使えないという人もいます。そういった人たちが文化の中心になる、拠点になるところなのです。高齢化であったり、バスも少なくなりますし、そういうことでやはり文化活動をする拠点となり得るところなので、そういうところが整備されればいいと思います。そこでどういったところが集まって、企画は区長さんと自治会長さん、類似公民館を管理されている分館長さん、分館主事さんが計画をたてます。それが活発になれば古賀市全体の文化度が上がると思うのです。こういう人たちは、一生懸命自分たちが音楽をしたい、踊りをしたい等で、芸術のおすそわけで色々なところに行かれたりされています。そういう人たちも大事ですが、古賀市全体の一人一人の住民の文化度が上がるために地域の類似公民館が頑張ってもらいたいと思います。そのために、このアンケートをとって発端になれば、コロナもありますし、活動もほとんどやっていないところもありますし、色々な気づきになって、活発になればいいのではないかと思います。

都甲会長：大変貴重なご意見だと思うのですが、このアンケートとはまた違ったアンケートになりそうな気がします。それもやった方がよさそうですが、時間的な問題などいろいろあって、悩ましいと思っているところです。もしアンケートが簡単にとれそうであるならば、今のこのアンケートの内容を検討することが可能かも含めて、事務局と相談することはできるのではないかと思います。それによってするかしないかを考えることはできます。

森部委員：一度公民館の担当にお尋ねいただいて、現在各公民館からいろいろな意見なりを聞いていただいていると思うのですが、そういったデータをもしあれば見せていただいて、かつこのアンケートの内容と一致するようなことがあれば、答えとして繁栄していけばいいのではないかと思います。

山下委員：アンケートの内容的には出せるのではないかと思います。あとは子ども会などにも投げるかどうかというのも一つあるかと思います。今、子ども会はどんどん人が少なくなっていますけれども、で

すので、そういった意味合いで考えていくということも一つあるのではないかと思います。

都甲会長：先ほどの公民館の件につきましては、今どのような情報を市が持っているのかを一度確認することからスタートしましょうか。必要に応じて、アンケートが必要であれば準備するというので、まずは市にある情報を確認いただくということで。

山下委員：一番いいのは、校区ごとにありますので、校区に頼んではどうかとも思います。小野とか、学校などいろいろなやっておられると思いますし。

森部委員：校区は古賀市内全部にコミュニティがあるわけではなかったと思います。だからそれはちょっと難しいかもしれないと思います。今は8校区あるうちの6校区でしょうか、組織がコミュニティとして成り立っているものが。それでしたら、仮に公民館に対してアンケートがとれるようであれば、その中に「子ども会はどうでしょうか」ということで含めて問の中に入れてみられたら、答えが出てくるのではないかと思います。

山下委員：そうですね。

山本委員：子ども会、育成会に関しては、市子連という市が統括している団体がありますので、とりあえずそこに聞いていただいて、各育成会が何をしているのか、おそらく把握しておられると思いますので、市子連に一回聞かれた方がいいのではないかと思います。

森部委員：子ども会に関しては、それがいいかもしれません。

都甲会長：事務局の方で把握していることがあればお願いします。

事務局：まず校区コミュニティに関しては、青柳校区がありません。花鶴校区が昨年解散しておられます。そしてコミュニティにお願いすることは可能なのですが、現実的にはバランスが取れなくなるため、やるべきではないと考えます。子ども会の話が出ましたが、包括的に言えば行政区長にお願いするという形になるのではないかと考えます。もう少し子ども会について話をさせていただきますと、おそらく今は半分、半分というのは人数ではなくて、団体としてです。地域としては活動していますが上の団体、例えばですが〇〇区として行います、というところはあるのですが、〇〇校区には入りません、まして市には入りません、という団体はかなり増えてきています。市子連自体も実態として半分程度しか入っていらっしやなくて、実態把握が難しいというのが現状です。我々が行政としてお付き合いしているのが、単位ではなく市子連でしかありませんので、市子連の方とお話をしてそういう苦労話が結構ございますので、その分は把握できるのですが、各それぞれについては、入っていらっしやるところはわかるのですが、入っていないところはわからないので、それもバランスがよろしくないのではないかと推測します。これが古賀市の現状です。それを考えますと、行政区長さんにお願いするのが一番早いのではないかと思います。分館を包括しておられますし、子ども会も包括しておられますし、自治会として全体で答えることも可能であると。ただとるとなった時に、それが文化団体かと言われれば微妙ではないかと思うところではあります。ただ文化そのものは団体がやるだけのものではないので、いろいろな場面があるかと、地域にお願いすることもあるかと思っておりますので、実態把握という意味でお願いすることは可能かと思っております。ただ聞き方は若干変わるかと思っております。

都甲会長：そうしますと、行政区長さんなどに関係することについては、可能性を探るということでもよろしいでしょうか。そして団体さんについてはどうでしょうか。資料などで今ございますが、以前10頼んだところ回答が5割、7割だったということで、それを考えると15、15くらいを目途に、という感じがしたのですが。最後20くらい集まるのを考えて。

事務局：提案させていただいてよろしいでしょうか。

都甲会長：どうぞ。

事務局：ここに12団体載せさせていただいていますが、こちらの12団体は確実にお願いさせていただくとして、これ以外にここにも、という団体を皆さんから推薦していただいて、20かそのくらいまでもっていただければいいのではないかと考えております。

都甲会長：そのような形がいいですね。

事務局：いいか悪いかは、事務局で決めることができない部分ですが。

都甲会長：それではこのリストを見ながら、ここの団体さんであれば、お願いできそう、回答できそう、というところで、ご推薦などあればと思います。

松田委員：アンケートはできればスマホなどにできれば、パソコンでしたほうが早いですし、数もいくらかでも増やせると思うのですが、今、よくスマホなどでアンケート徴取していますが、集計もパソコンの方が楽だと思います。

平川委員：私は少し難しいかなと思います。

事務局：できるとすると、市のホームページに我々が記事を載せて、添付でファイルを載せて、メールでご回答くださいという形が限界かと思います。

松田委員：若い方はいかがでしょうか。

山田委員：パソコンや携帯電話でアンケートをとる方が、効率的な形でとれるのではないかと思います。先ほどまでいろいろな団体さんにお配りしてであったり、自治会さんをお願いしてであったりというお話がございましたが、それとプラスアルファでアクションプランの内容の方もお配りして、なおかつお願い文書をお配りされると思うのですが、それでしたら九州高校などでもあったのですが、映像資料か何かでこのアクションプランの主旨説明であるとか、アンケートの内容についての説明であるとかを一括して行うことができ、QRコードを読み取って見てくださいというようになれば、内容の理解も深まりますし、説明する人によってばらばらの発言になってしまって、統一性がなくなる可能性も有りますので、一括して一つの形になるのがいいのではないかと。文書記述もいいのですが、映像でわかりやすく整理されると、簡単なものであればパワーポイントで作成されたものも、QRコードやユーチューブを活用して映像媒体に上げていただいて、アンケートの主旨を確認してから行うなどすると、人的なところも少し削減できるのではないかと思います。インターネットができれば、効率的な動きができるのではないかと思います。

山下委員：そうするとアクションプランなども市のホームページに上げるとまた違うのではないかと思います。

事務局：アクションプラン等は閲覧できるようにしております。今先生がおっしゃったのが、映像資料を作ったということでございました。そのあたりは我々に足りていない部分でありますので、努力をしたいと思います。大変参考になりました。実は船原はもう少ししましたら船原チャンネルというものを上げようと思っております。それは余談なのですが、まだ文化の方がそこまでいっておりませんので、鋭意努力したいと思います。大変参考になりました、そういうやり方があるのだなと目から鱗でした。ありがとうございます。ただ、今回は文書でお願いします。

山本委員：現状としては文書でもらった方が安心しますし、これだけの熱意があるのだとわかんと思います。自分で閲覧して書いてください、では多分、現状でもらったほうがいいのではないかと思います。

平川委員：出さないと、と思いますね。

谷口委員：そもそもウェブ上では不特定多数の情報をとるというアンケートの取り方だと思います。団体さん宛てというのは年齢がかなりの人もおられますし、若い人も、多岐にわたっていて、そういう人にアンケートをすると文書や資料を付けてお願いするという形が正確に取れると思います。映像なども

大事なのでどんどんやっていただいて、もし将来にわたって、不特定多数で文化の習熟などを古賀全体でとるときに手段として今のうちから研究していただけて行くのがいいのではないかと思います。

都甲会長：研究していただいてですね。

事務局：おっしゃるとおりです。ありがとうございます。

平川委員：団体さんというのが、申し訳ないのですが、私はここに書いてある団体さんのことが詳しくわからないので、推薦と言われても出来かねる部分があるので、統括しておられる例えば文化協会さんであれば、この団体がどうか、ということもわかられると思う気がしますので、統括しておられるところに推薦していただくというのは難しいでしょうか。5団体ずつ推薦していただいて、その団体を事務局が選んでアンケートを送るなど。

山本委員：アンケートをとる団体について、どれだけアンケートをとればいいのかということが、10であったり20であったり、15であったりという範囲が今わからない状態なので、できましたら私としては全部とっていただけたらそれが一番だと思うのですが、集計などが難しいことであれば、例えば文化協会であればこれだけの団体さんが登録団体におりますので、文化協会のほうでアンケートをとるという可能性はあるのですね。文化協会さんをお願いします、このアンケートとってください、ということであれば、多分文化協会としてはできると思うのですが、そういう団体を把握している所をお願いして、なるべく多くのアンケートを取った方がいいのではないかと思います。ただそれだけ沢山取っても無駄だよ、最低これだけあればいいよ、という基準があれば、それに合わせたいと思うのですが。

事務局：統計の話で言いますと、全体の2割程度取れば傾向が読めるという話があるのですが、全体が把握できていないので、何が2割か、数は正直わかりません。20が果たして正しいのかと言われると、これも全くわかりません。全部に聞くことを悉皆調査というのですが、できればそれが一番なのですが、そこまですると今度は集計の方がおぼつかなくなるという現状もありますので、どうでしょうか。我々としても100、200とさばくのは非常に厳しいのではないかと考えております。こういう言い方をすると失礼になるかもしれませんが、主要団体さんというところで今挙げさせていただいているところなのですが、ただサンプル数が6万人規模の市の中で20団体というのは少ないのではないかと個人的には考えておりますので、もう少し増やしたいなというところで、皆様からのご意見がいただければと考えております。

森部委員：実際に私たち文化協会の内容はわかりますので、例えば文化協会でもいろいろなジャンルがあるのです。音楽やカラオケなどですね。その各ジャンルの中から1つずつお願いするという形であれば、11くらいはプラスになるかもしれません。ただ他の団体の方が内容を私が掴んでいないのでわかりませんので。どちらかといいますと、この回答いただいた12団体でしょうか、このくらいの活動内容で前回とられた以外で新たに団体を発足して活動をされているようなところがどれくらいあるかです。

都甲会長：事務局に質問なのですが、この団体一覧の1枚目が文化協会、それからつながり広場、社会福祉協議会とありますが、大きく3つに区分されるのですか。

事務局：前回の審議会でも、市が把握している団体を示すようというご意見をいただきましたので、市が把握している団体について出させていただきました。もしこれ以外の団体さんがあられば、皆様からご紹介くださいということで、市として把握しているものが以上です、ということです。つながり広場さんの一覧表は多岐にわたっているのですが、左から6番目の「学術・文化・芸能・スポーツ」の所ですね。スポーツなども入っていますので、そこはまた区分けが必要かと思いますが、このあたりにあがっている団体さんが対象になるかと思えます。

平川委員：団体さんの目的が違って、文化協会さんは文化を広げるという目的ですが、つながり広場

は公益に資するといえますか、市民のために活動する団体さんを拾ってあるのです。ですのでちょっと目的が把握しているところによって違うということはありません。社協さんはボランティアということで。ただ同じ団体さんが全部に入っている場合もあります。

山本委員：つながり広場に登録されている方と文化協会に登録されている方でだぶっている部分はありますね。

都甲会長：皆さんへの質問になりますが、この平成20年に行った12の団体さんの中を見ると、例えば文化協会さんの中の伝統芸能的な方々というのはいらっしゃいますか。そういったものが見当たらないなと思いましたが。分野が入っていないものがありそうでしたので、そういうところを主に拾って行ってプラスしていくといいのではないかと思います。

山本委員：芸能関係が多くて、芸術関係の団体さんのアンケートが少し少ないようです。

都甲会長：そうですね。そうすると平成30年度のアンケートでも、まだとっていないところが沢山ありそうですので、あと10くらい増やしてはどうか、ということ以外決まらない気がします。

事務局：ということであればなのですが、提案させていただきます。少し数は増やさせていただきたいというところで、ではどの団体でとるかということについては、文化協会さんに相談させていただいてということで、ある程度絞れた段階で皆様へお諮りするという流れにしてはいかがかと思います。

森部委員：文化協会だけではなくて、やはりつながり広場の登録団体もたくさんありますので、つながり広場にも声をかける、それから社協さんにも。たくさんなくていいので、例えば規模を10増やしたいのであれば、3、3、4などですね。そういうことでお願いしてはどうでしょうか。

事務局：でしたら、3団体ずつお声がけをさせていただいて、リストアップさせていただいて。会議の場では難しいので、個別に皆様にお知らせするという形でもよろしいでしょうか。

久池井委員：その時に選ばれる基準というのが、前回のものになります。例えばある程度の規模であったり、ある程度の活動実績であるなど、特色ある内容など、そういう基準のようなものを作った方がいいです。問題であるのは、どうしてそこを選んだのですかと聞かれた時に応えられるように。それこそ人間関係などではあれでしょうし。全てを網羅することはできないので、そういった形でピックアップされればいいのではないかと思います。

事務局：規模や分野がいろいろあるかと思いますので、平準化されるように考えていきたいと思います。それで団体さんの方に相談させていただいて、推薦していただくという流れを取りたいと思います。

都甲会長：今日の議題としてはこの程度でしょうか。皆様からほかにご意見等ありますか。

山本委員：前回の審議会の時に、一般の方たちがこのアクションプランをご存じではないということで、一般の方に問いかけた方がいいのではないかと提案をしたのですが、それがちょっと難しいような話であったので、文化協会が市主催の「芸術文化の祭典」をやっております。今年のプログラムにアクションプランについて載せました。そして実際にアンケートをとりました。その結果をお配りします。必要なところもあるのですが、全体的に何人来られたかということと、実際にアンケートをとった人数も載せておりますが、芸能部門を見に来られた方のアンケートです。実際に3ページの5番、平成26年3月に文化芸術振興計画を策定しましたがご存じですか、というアンケートを取っています。結果として、3日間のトータルとしては、知らないという方が55人ということではほとんどの方がご存じないということでした。振興計画を行動におこすためのアクションプランをご存じですか、実際このアクションプランは各戸配布か回覧まで行っているのでしょうか。実際には行っているのですが、これを知らないという方がほとんどでした。具体的に知っているという方について、次の頁が知っているという方ですが、ここもほとんど回答は書かれていなかったのですが、2人だけ書いておられて、1番の方がすごく憤慨し

て書かれているのですが、「知らない人たちは無視ですか、知っている人だけ…それはおかしいと思います。公平ではないと思う。市民全体の皆に知らせてほしいです。あなたこそ前向きにアクションを起こしてください」ということを書いていらっしゃる方がおりました。もう一人の方は「コロナ禍の中でニュースが漏れがちです」ということで書いておられます。以上が芸能部門に来られた方です。その次が芸術部門、ここで芸術作品を展示しているのですが、そこで見に来られた方のアンケートの結果なのですが、知らないという方が11人、聞いたことがあるが内容を知らないという方が22人となっております。そして次の頁のアクションプランを知っていますかという項目になると、やはり知らないという方が多くなっております。具体的におこされた行動をということで文字で書いていただく項目があるのですが、次の頁で、アクションプランを知っていると答えられた方の中で、行動をおこしていることがあれば教えてくださいという項目です。ここも寂しい意見もあったのですが、社会教育委員をやっていますが、細かく知らずすみません、という方と、文化芸術に関係するところに携わり、古賀市の取り組みに参加したり…、学校として協力推進したいと考えています、ということで書かれています。芸能部門の方のアンケートよりも芸術部門を見に来られた方のほうが、アクションプランなり振興計画をご存じの方が多かったという結果です。しかしほとんどの市民の方が知らないと答えられているのが、ちょっと今後のことを考えました。

都甲会長：大変貴重なアンケートありがとうございます。

久池井委員：私、そのアンケートを配っているのを見まして、すばらしいなと思いました、やはりこういう形で繰り返し繰り返し目にすることが大切です。もう一つが、これは各戸配布はされていないですね。

事務局：計画と前期のアクションプランは各戸配布をさせていただいております。後期については、市のホームページに掲載しておりますのと、文化協会さんの総会にて団体さん全員に配布させていただき、会員の皆様にもお伝えくださいという形を取っております。

久池井委員：ですので、市民の方が知らないという数字は実際驚くようなことではないのです。実際目にされていないのです。ホームページというのは、しっかり目的をもって見る人以外は目に留まらないことが多いです。ですので、次の振興計画を作る際には、そのあたりも考えるといいと思います。古賀市には団体がたくさんあるのですが、全ての団体の方も手元にこれが行っているのかなと思っております。

事務局：あちこちに置かせていただいて、ご自由にお取りくださいということではしているのですが、なかなか手に取っていただけない状況です。

久池井委員：少なくとも団体はお持ちでないという意味が無いです。アンケートを送りますと話しても、そもそも何ですか、という話になったら、ほとんど意味をなさないと思います。そのあたりは今後の課題だと思います。市民の方の数値が低いということですが、あながち市民の方の認識が足りないという話ではないと思います。

山田委員：私も今古賀市に住んでいて、回覧というのが一軒家には基本的に回ってくるのだと思うのですが、考えてみれば私の所には回ってきていないと考えまして、場所にもよるのでしょうかマンションなどには回ってきていないのかなと思っておりまして。やはりパンフレットでなかったとしても、チラシなどでも、そういった呼びかけもありなのではないかと感じました。

山下委員：今回覧の話がありましたが、区で見れるようなシステムを今作っていると思います。

都甲会長：ありがとうございました。こういった形で貴重なご意見が出てきたのはよかったですと思います。

それでは、議事を事務局に戻します。

5 その他の事項

6 閉会のことば